

令和2年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月23日実施)	総合評価（3月31日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①極めて高いレベルの文武両道のもと、高い学力、幅広い教養を身につけ、国際社会のリーダーとしての資質を培う教育課程を編成し、全職員で組織的に取組み、実現させる。	①-1「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業実践に向けて組織的に授業改善に取り組む。  ①-2 知識技能を定着させるとともに、物事を多面的に深く理解し、思考を広げ深化させる授業を、教員と生徒で作り上げる。	①-1 高いレベルの学力向上を支えるために各教科で3年間を見通した授業計画を共有するとともに、担当学年を超えて、組織的に授業改善に取り組む。 ①-2 集団で活動し、新たな学びを構築する探究活動を推進する。	①-1 教員間の授業参観と、授業改善のための協議に2回以上出席したか。  ①-2 生徒が思考力・判断力・表現力等を発揮して、自らの学びを推進する意志を持ち、また課題を解決するために行動する場面を設定できたか。	①-1 10月に授業研究週間を設けて研究授業及び教科会を行い、それを受けての授業研究会を実施し、21名が参加した。  ①-2 授業力向上WGがロイロノートなど新しいツールにより、生徒同士の考えの共有や、共有した課題の活用方法を研究し、研修会を実施した。	①-1 授業研究会への参加者を増加させることが今後の課題である。  ①-2 校内Wi-Fiが不安定であることと、教員・生徒の機材の不足が課題である。	日常的に教科を超えた授業参観を定着させる手立てが必要。  より具体的に成果を量れるような評価の観点を設定するとよい。  ハードウェアの整備が急速に進む中、端末を使用する生徒たちへの情報モラルの指導、教員への端末を利用した授業展開のための支援が必要。	①-1 例年は1日だけの研究授業を2週間設けたことによって、多くの教員が参観しやすくなった。 新型コロナウイルス感染防止対策により学校運営協議会委員等に直接、授業参観していただく機会はなかったが、オンラインで授業の一部を参観していただくなど、新規の取り組みができた。  ①-2 ロイロノートの研修会を6回実施（各回10名程度参加）し、ICTツールの活用方法が教員間に浸透してきた。校内Wi-Fiが不安定であること、教員・生徒の機材が不足であること、それら備品の管理が課題である。  情報モラル教育について、1年の「社会と情報」の授業だけでなく折に触れ指導し、充実を図る必要がある。	①-1 次年度も授業研究週間の形式で実施し、より多くの教員が参加できるようにする。また、Zoomなどでのオンライン配信を行い、外部の方や職員室からでも授業研究会に参加できるよう態勢を作る。  ①-2 3月に校内Wi-Fiの増設工事を行ったが、実際の授業では未使用なので今後改善された状況を把握する必要がある。 クロムブック、プロジェクター、ヘッドホンなどの備品の管理については、教育計画・管理運営等で連携を取り保管場所なども含め検討していく。  授業評価アンケートにICTツールに関する質問項目を追加するなど、見直しを図る。
2 生徒指導・支援	①次世代リーダーとして、世界に通用する人間としての高い倫理観や、心豊かで他者を思いやることのできる人間性、自律的・主体的な態度を育成する。  ②個別の生徒の課題について、迅速にまた計画的に組織的に対応する。	①全教員で課題を共有して、一致した生徒指導・支援を行う。  ②個別の生徒の課題を把握、共有化して支援し、課題解決を図る。	①自身を取り巻くさまざまな事柄に関心を持つことの重要性や、授業規律や公共のマナー遵守について、授業、HR、集会等で継続して伝え、指導する。  ②生徒の課題の解決に向けて、ケース会議やスクールカウンセラーを活用して迅速に対応する。	①将来のリーダーとしてふさわしい自律的な態度やマナーを身につけさせることができたか。  ②報告・連絡・相談を円滑に行い、計画的に課題解決に向けて取り組むことができたか。	①新型コロナに関わる様々な事柄に対して、公共のマナーやそれぞれの場面において、比較的柔軟かつ正しく対応することができていた。 例年にない状況のなかで行事・部活動について生徒主体で自律的な運営を促すことができた。  ②ケース会議等を適宜実施し、教員間の連絡を密にし、個々の生徒がかかえる課題に対応することができた。	①公共の場でのマナーなど、今後も予想される刻々と変わる状況に、より柔軟に対応する姿勢を生徒に身につけさせる必要がある。  ②スクールカウンセラーの需要に追い付かない時がある。 グループ内の連携をより強めて迅速な課題への対応をすすめていく。	教員集団が、柔軟な仕掛けと発想・姿勢を示すことと、生徒の内に育つものがある。  担当教員の負担を増やすことなく、外部の専門機関と日常的な連携体制をより強化していく必要がある。	①新型コロナウイルス感染防止対策を組み込んだ学校行事・部活動の運営方法を検討し、実践した。これを契機として合理的な学校行事・部活動運営のありかたについて次年度以降検討する。  ②教員の異動を想定しつつ円滑かつ継続的に支援できるよう整備していく。	①従来の運営方法、新たな運営方法を記録・共有して活用し、今後の状況変化に柔軟に対応していく。  ②業務分担や業務の合理化・効率化を適切に進めていく。

3	進路指導・支援	<p>①進路支援グループ、学年、部活動顧問等で連携して、3年間を見通しての計画的かつ最後まであきらめさせない進路指導を徹底する。</p> <p>②世界に目を向け、「最も困難な道に挑戦する」高い志を育成する取組みを推進する。</p>	<p>②「Always do what you are afraid to do!」という教育モットーを掲げ、生徒一人ひとりが高い目標を実現可能とする進路指導を計画的に行う。</p>	<p>②入学から受験期まで、難関大学をあきらめない指導を、全職員が連携して指導を徹底する。</p>	<p>②-1 集会、各HR、進路通信等で湘南の進路指導を理解させ、進路意識を高めることができたか。</p> <p>②-2 生徒の希望や実力テスト結果を共有して、指導できたか。</p>	<p>②-1 コロナ禍における適切な進路説明会・進路講演会を模索し実行した。</p> <p>②-2 生徒の志望や実力テストの結果等、様々なデータを学校全体で共有し指導に生かした。他校との情報共有に努めた。</p>	<p>②コロナ禍、入試改革、新学習指導要領等の変化を踏まえて、湘南の進路について研究・共有を進めていく。</p>	<p>今年度の取組みの検証を十分に行い、次年度の指導計画に組み入れることを期待する。</p>	<p>②初めての大学入学共通テスト、コロナ禍の入試等の変化に、柔軟に対応することができた。結果として、進路行事等については例年通り実施することができた。ただし、変化の多い年であったので、入試実績等を検証した上で来年度の計画を立てる必要がある。</p>	<p>②教科とグループを中心に、結果を検証したうえで、課題を見極め計画に組み込んでいく。コロナ禍は続くので、それを踏まえて柔軟に計画を策定していく。他グループ・学年との連携を深めていく。</p>
4	地域等との協働	<p>○地域との協働を推進し、地域に信頼される学校づくりをめざす。</p>	<p>生徒の地域貢献活動を推進する。</p>	<p>各部・委員会等のボランティア活動を支援する。</p>	<p>ボランティア等の参加件数と人数が増加したか。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の拡大により各部、委員会等によるボランティア活動を推進することはできなかった。</p>	<p>コロナ禍において、また生徒の健康と安全のため、外部への積極的なはたらきかけを勧めることは難しい。新型コロナウイルス感染症の蔓延のなかで可能な地域貢献活動について検討する必要がある。</p>	<p>対面ではない貢献の手法を考える機会としていただきたい。</p> <p>様々な地域貢献活動を見直す機会として捉えることも重要。</p>	<p>今年度は、極力、接触を避ける状況であったので、これまで継続してきた、ボランティア活動や、地域への貢献ができず、目標を達成することはできなかった。</p> <p>従来のボランティア活動・地域貢献活動以外に状況に即した新たな活動を検討する必要がある。</p>	<p>リモートを利用した交流など、新しい生活様式の中で、これまでとは異なる方法での地域との交流や貢献の実現を検討する。</p> <p>対面によらないボランティア活動・地域貢献活動の検討を行う。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①教育公務員としての高い倫理観と同僚性を保持し、学校目標達成に向けて堅固に協力するとともに、事故・不祥事を起こさない職場環境の形成に向けて、職員一人ひとりが意識して行動する。</p> <p>②働き方改革を推進するために教員の意識改革を図る。</p>	<p>①職員一人ひとりが、事故・不祥事防止に向けて、当事者意識をもって取り組む。</p> <p>②学校閉庁日を設定するとともに、業務の効率化を図る。</p>	<p>①報告・連絡・相談を円滑に行い、事故防止に努め、協力して学校目標の達成に向けて、各業務に取り組む。</p> <p>②学校閉庁日を年間3日設定し、休暇の取得を促進する。</p>	<p>①-1財務事務調査結果が昨年度より改善したか。</p> <p>①-2事故・不祥事件数0を達成したか。</p> <p>②夏季休暇・年休等の休暇取得日数が昨年度より増加したか。</p>	<p>①-1 財務事務調査結果を昨年度よりも改善できた。</p> <p>①-2 毎月開催の事故・不祥事防止会議を通じて、事故・不祥事件数0を達成した。</p> <p>報告・連絡・相談がすみやかに終わって学校運営を円滑に遂行できた。</p> <p>②学校閉庁日を3日設定したが、夏季休業期間が短かったため、夏季休暇の取得は約1割減であった。</p>	<p>①今後も事故・不祥事防止に向けた当事者意識の維持に取り組む。</p> <p>②夏季休業中の学校閉庁日を1日増加し、引き続き、計画的な夏季休暇・年休の取得を呼びかける。</p>	<p>学校経営陣のリーダーシップに期待する。</p>	<p>①財務事務調査結果を昨年度よりも改善できた。事故・不祥事件数0を達成した。報告・連絡・相談がすみやかに行き学校運営を円滑に遂行できた。</p> <p>②新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、夏季休業期間が短かったため、夏季休暇の取得は昨年度比約1割減であった。夏季休暇・年休等の取得の増加が課題となった。</p>	<p>①今後も事故・不祥事防止に向けた当事者意識の向上に取り組む。打ち合わせや会議の効率化を図り、効果的な情報提供や意識の定着に努める。</p> <p>②学校経営陣のリーダーシップのもと働き方改革の実績を上げる。夏季休業中の学校閉庁日を1日増加し、引き続き、計画的な夏季休暇・年休の取得を推進する。</p>